

愛知県立芸術大学の先生方が音楽科に来校！！

11月8日(火) 愛知県立芸術大学音楽学部教員派遣による交流事業（音楽キャラバン）を行いました。

音楽科生徒に一番人気が高く、志望者の多い愛知県立芸術大学音楽学部の先生方9名が加納高校音楽科のために来てくださいました。大学の説明を聞き、先生方のコンサートを聴き、さらに専攻別レッスンを受講、聴講するという何とも贅沢な時間を過ごしました。

大学説明：作曲専攻作曲コース准教授 成本 理香 先生と作曲専攻音楽学コース教授（音楽学部長・音楽研究科長） 安原 雅之先生が丁寧に大学の説明をしてくださいました。

♪県芸の特色をよく知ることができました。自分の人生の中のたった4年間を森林に囲まれた場所に来て芸術を学ぶという魅力に共感しました。そこにこれからの自分が歩む人生の道のりがあるということを知り、以前よりもより県芸に興味をもつことができました。
(生徒の感想より抜粋)

先生方によるミニコンサート《プログラム》

1. バッハ：無伴奏ヴァイオリンソナタ第1番 BWV1001 より アダージョ、フーガ

Vn 桐山 建志

2. プーランク：クラリネット・ソナタより 第1楽章「悲しげなアレグロ」

Cl ブルックス 信雄 トーン Pf 北住 淳

3. フリューリンク：ファンタジー

Fl 橋本 岳人 Pf 武内 俊之

4. ショスタコーヴィッチ：前奏曲とフーガ第24番二短調 作品87-24 より フーガ

Pf 武内 俊之

5. ジョルダニー：いとしいひとよ

プッチーニ：《トスカ》より 妙なる調和

T 小原 啓楼 Pf 北住 淳



6. ペヌカン：演奏会用小品

Tp 井上 圭 Pf 北住 淳

先生方の演奏はピアノ、歌、楽器どれにおいてもプレスや音を伸ばしている時などすべてを音楽として見せている姿がすごいと思いました。強弱とメリハリがすごくあったことによって、あまり、知らなかった曲でも「ここを聴かせたいんだ!」「ここが盛り上がる所なんだ!」と自然に理解して聴いていました。(生徒の感想より抜粋)



専攻別公開レッスン：

専攻	レッスン担当教授
<p>作曲</p>	<p>作曲専攻作曲コース 准教授 成本 理香 先生</p> <p>歌曲を作るときメロディーで、言葉のアクセントを意識して音を選ばないと何の言葉を使っているかわからないから、メロディーを優先させるのか、言葉のアクセントを優先させるのかバランスを持って作ることが大切だと教えていただきました。</p> 
<p>音楽学</p>	<p>作曲専攻音楽学コース教授 (音楽学部長・音楽研究科長) 安原 雅之先生</p> <p>「音楽学」というものは広い視野から音楽を見つめるものだと言われてわかりました。研究するにあたって、「音楽美学」から学ぶようになったらギリシア時代から学んだり、「音楽療法」だったら脳波のことについても学んだり、とても広いと感じました。将来のためにとても役立つレッスンでした。</p> 

<p>ピアノ1</p>	<p>器楽専攻ピアノコース 教授 北住 淳 先生</p> <p>音楽を演奏すること＝自分を表現することであるということを実感するレッスンでした。自分の体や心の状態が少し違うだけで音は大きく変化し、姿勢、肩の位置、目線が少し違うだけでこもった音になってしまったり、開放感のある柔らかい音になることがわかりました。</p>	
<p>ピアノ2</p>	<p>器楽専攻ピアノコース 准教授 武内 俊之 先生</p> 	<p>弱音の部分でも、深く響く音を出すことや、音楽が前に進むときでもpであれば音量を変えるのではなく、音色と気持ちを変えて弾くとより大人な演奏になるということも勉強になりました。</p>
<p>声楽</p>	<p>声楽専攻 教授 小原 啓楼 先生</p> <p>p（弱く）が「緊張」という意味だと知り、音楽には言葉に表すことができない緊張感や開放感を表現できるとも深いものだとして再認識しました。先生はとてもエネルギッシュで、喜怒哀楽について実際に再現してくださいました。</p>	
<p>ヴァイオリン</p>	<p>器楽専攻弦楽器コース（ヴァイオリン） 教授 桐山 建志 先生</p> <p>調の変化によって出す音色を変化させるということ意識して弾くことが大切。その調は何色なのか、どんなイメージがあるのかを整理して音色を出すなどを学びました。「美しいだけでは中身がない」の言葉が印象的でした。</p>	

<p>フルト</p>	<p>器楽専攻管打楽器コース（フルト） 准教授 橋本 岳人 先生</p>  <p>口や喉の開き具合からタンギングの発音、アーティキュレーションや強弱の表現方法などの奏法を教えてくださいました。「音楽をするときは役者になる」「譜面台の高さは音が当たって響きもったいないことがある」ということなど演奏の参考になりました。</p>
<p>クラリネット</p>	<p>器楽専攻管打楽器コース（クラリネット） 准教授 ブルックス 信雄 トーン 先生</p> <p>タンギングのコツやリズム的と拍子的、歌うように表現する違い、隣り合う音があるときの工夫などを教えてくださいました。良い例と悪い例を比較できるよう言葉だけでなく、実際に演奏してくださりとても分かりやすかったです。</p> 
<p>トランペット</p>	<p>器楽専攻管打楽器コース（トランペット） 准教授 井上 圭 先生</p>  <p>体力の温存の仕方、pは普通に吹き、fは頑張るという逆算の考え方で最後まで吹き切ることにしながらことや音の種類によって息の入れ方を変えることで遠くまで響く音にすることができるなどを教えてくださいました。</p>

(生徒の感想より抜粋)